

『もりおかの短歌』

秋の部 優秀賞十首

ゆきつ

雪吊りの

なは

繩にいのちを託しきり

たく

いしわりざくらしづ

ねむ

石割桜静かに眠る

青森県青森市 鈴木 操

しか

叱りても宥めるごとき南部弁

なだ

なんぶべん

わ

和して流れぬ

なが

もりおかの人

ひと

盛岡市 及川 宗享

いねひか

稲光り実りの秋に

みの

あき

ともゆ

友逝きて

こんべき

紺碧の空岩手の山よ

そらいわて

やま

東京都江戸川区 小松 節子

錦秋きんしゅうに 彩いろどられたる

不來方こずかたの

かの城跡しろあとに 我われも寝転ねころぶ

盛岡市 赤坂 昌信

北上きたかみの瀬音枕せおとまくらに啄木たくぼくの

歌うたを讀よみたし

四季折々しきおりおりの

北海道北斗市 有賀 久雄

レンガ館かんい出でし生徒せいとに道聞みちきかれ

わんこ蕎麦屋そばやを

指さす昼ゆびひるどき

盛岡市 堀米 公子

久方ひさかたの

盛岡友もりおかともの 手料理てりょうり

うましなつかし ドカ雪ゆきもとけ

東京都東大和市 阿部 リエ子

与よの字橋じばし 鮭さけは来たかきと見下ろせばみお

隣となりにひとり

またもうひとり

盛岡市 小地沢 和志

もりおか えき かつきみ いなかもの  
盛岡の駅は活気満ち田舎者の

われ  
吾ドキドキと

つま ま お  
夫を待ち居り

大船渡市 津田 美知子

ホームレスらしき女見ゆひとみ

えきなか  
駅中で

い ばな み  
生け花見ではエスカレーターに

神奈川県横浜市 鶴見 和夫

秋の部へジュニア部門へ 優秀賞三首

コスモスを 近くで見ると

いつもより かがやいて見え

息する実感

盛岡市 石戸 伶奈

あさ早く市場へ行って

すいか買う

昼とはちがう爽やかな風

盛岡市 藤根 美月

うすももの石割り桜

温かい

花びら散っても笑顔が光る

盛岡市 山崎 結菜

〔講評〕東北の秋は頭で想像する以上に短く感ぜられるものだ。特に盛岡はさんさの熱気がさめやらぬ中、坂道を転げ落ちるように秋が訪れ、ややもすると秋を愛でる心の準備が出来ぬまま冬を迎えることとなる。天はどこまでも高く、日差しはある意味夏よりもまぶしく感ぜられるのはそのせいかもしれない。これら歌たちはこの秋の日差しを等しく浴びて、輝く一瞬の風景を掬い上げたものである。冬の足音を聞きながらしばし秋の盛岡を味わってみるのもいいだろう。

平成二十九年十二月選 秋の部

投稿数 三百二十四首

選者 山本 玲子